

作業所での木工・伝統技術習得と オリパラリンピックに向けた連携事業

特定非営利活動法人 絆の会
〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 2-33-9

助成事業の概要

【目的】 事業所の既存作業になかなか関われない利用者の方々が、昨年度に興味を示した木工磨き作業に取り組み、新たな工賃作業に繋げていく。木工に関する専門性と技術、福祉実績を持つ講師を招き、6回の研修会を実施する中で、利用者の技術向上、職員の指導ノウハウ蓄積を行う。同時に複数の作業所連携により、オリパラリンピックを見据えた作品製作を目指していく。

【時期と内容】 6回の研修を次のように実施。

- ① 5月24日(金)、間伐材のバターナイフとカード立て製作と機材指導を長野県の施設にて実施(32名参加)。
- ② 6月14日(金)、5月と同様の内容に間伐材の磨き玉を加え、渋谷区にて実施、区内作業所と栃木県施設職員が参加(24名参加)。
- ③ 8月20日(火)、「渋谷区親の会」の協力により、夏休みの親子も参加できるよう、間伐材スライスを使ったアクセサリーの磨き製作とウッドバーニング(焼ごて)練習を実施(17名参加)。
- ④ 9月11日(水)、調布市施設にて、「江戸仕立てみやこうちわ(千鳥うちわ)」の最後の職人指導により、「貼り」と呼ばれる竹骨を均一に並べる技術指導を受ける(11名参加)。
- ⑤ 10月4日(金)、渋谷区にて前回同様の職人技術指導を受け、中野区施設からも参加(14名参加)。
- ⑥ 12月17日(火)、間伐材スライスのクリスマスオーナメント製作、ウッドバーニングも

使って実施(27名参加)。

事業の成果

【利用者の技術向上、作業の広がりができた】

6回の研修を通して、檜間伐材のバターナイフ、カード立て、入浴用の「磨き玉」、ウッドスライスにアクセサリーパーツを付けたペンダント、マグネット、クリスマスオーナメントができた。サンドペーパーを使った木工磨きに慣れ親しみ、目に見えて上達し、取り組む集中力も上がり、日常の施設内での作業としても取り組めるようになった。また、磨いた後の「ウッドバーニング(焼ごて)」を使った文字入れは、施設内で取り組めない危険を伴う作業だったが、指導者のもとで集中して貴重な体験をすることができた。

【職員の指導ノウハウ蓄積ができた】

木工の造形作家指導を受けたことにより、サンドペーパーを使った磨き方やウッドバーニングの使い方がわかった。また、利用者が磨ける段階にまで、間伐材を下加工準備しなくてはならない課題があったが、渋谷区内で木工作业に取り組むB型事業所に出向いて機材を借りることができ、職員による下加工が可能となった。

【貴重な職人指導による千鳥うちわ制作体験と、利用者の自信の高まり】

あらかじめ、渋谷区、中野区、調布市とで、細かい繰り返し作業が得意と思われる利用者を選抜し、「江戸仕立てみやこうちわ(千鳥うちわ)」の最後の職人の方から指導を受けることができた。職人の手元を真剣にじっと見つめ、自ら「やってみたい」

と言出し、普段は見せないような真剣な表情で職人技を真似て、実際にうちの「貼り」と呼ばれる作業を体験。参加者全員やり遂げることができたのには、驚かされた。熟練職人に直接指導を受けるという貴重な機会を得て、本人たちにとっても新しい世界が広がり、自信につながったと思われる。

【芸術的な千鳥うちわ展示会への作品参加ができた】

実際に利用者の方たちが貼り制作した千鳥うちわを、11月26日(火)~12月2日(月)「布多天神社(東京都調布市)神楽殿にて、インスタレーション作品として展示いただくことができた。千鳥うちわの職人の方、布多天神社関係者の方々、ロンドンであかりアートをプロデューサーされた「日本あかり博」の方などに協力いただき、素晴らしいあかりの展示が実現した。ここまで形になるとは思っていなかったのが、非常に大きな励みとなった。

【他施設や団体との新たな連携・交流ができた】

今回の研修会には、渋谷区内の施設参加のほか、長野県、栃木県、調布市、中野区からの参加もあり、同じ間伐材を使った製作の連携や交流をすることができた。また、千鳥うちわの持ち手を間伐材で切り出し、府中市と山梨県の施設の方々が手磨きをするなど、展示の千鳥うちわ製作を通しての連携も実現できた。

成果の広報、公表

渋谷区内で実施する研修会では、事前にご案内を前回までの成果を含めて区内の事業所に配布していた。渋谷区ではオリパラリンピックに向けて「ちがいをちからに変える街。」とスローガンを掲げており、渋谷区内の作業所連携による「シブヤフォント」などが注目を集めている。見学に来られる方々が増えており、今年度取り組んだ木工作业や

製品を紹介して見ていただくことができた。

商品化は来年度となるが、着実に進めて、オリジナル自主製品として販売していくことを見据えている。

また、布多天神社での展示会では、事前リリースをしていただき、媒体にも取り上げていただいた。今後も引き続き、木工作业の取り組みと木工製品のアウトプットを心がけていきたい。

今後の展開

施設内での木工磨きが日常の作業として定着しつつあるので、作品として出来上がってきているマドラー、磨き玉などをオリジナル商品として販売して工賃につなげていきたい。オリパラリンピック開催は、新型コロナウイルスの影響で、報告書提出の現時点では先が見えていないが、時間の余裕ができたと前向きに捉え、その間に、渋谷区内作業所や地方の作業所との連携を深めながら、作業や作品の幅を広げていきたい。

また、せっかく体験できた千鳥うちわの職人技も、次年度に体験できる機会を持ってつなげていきたいと思う。

木工磨き作業も千鳥うちわの技術も、このような取り組みは、小さな積み重ねを長く継続することによって、少しずつ形になっていくものだと思うので、時間をかけてよいものにしていきたいと考えている。

貴会の助成金によって、このような機会をいただき、大変ありがたく思います。